※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | ２０２ |
|---|---|

# 令和５年度　地理歴史科

| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 歴史総合 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 「歴史総合」　（実教出版） | | | | | | |
| 副教材等 | 新詳　歴史総合　（浜島書店）<br>歴史総合　演習ノート　新課程版（実教出版） | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史資料に親しみ、歴史という時間軸を感じる。
・過去の歴史的事実を正確に理解し、日本と世界の現在と未来のあり方を考える。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。

## ２　学習の到達目標

・現代の社会人に最低限必要な歴史についての基礎的知識や考え方を身につける。
・現代世界の諸問題を、歴史にもとづいて考え論じる経験をする。
・日本や世界の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。
・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

## ３　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象をもとに、それらが日本や世界の歴史とつながっていることを理解している。<br>・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。 | ・近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。<br>・複数の資料の関係や違いに着目して、資料から読み取った情報の意味や特色などを考察し、表現している。 | ・中学校社会科における学習の成果を生かし、「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 近代化と私たち | 第1章<br>1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動<br>2. 江戸時代の生産・流通と諸改革<br>3. 幕政の改革と東アジア世界<br><br>第2章<br>4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争<br>5. フランス革命とウィーン体制<br>6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立<br>7. オスマン帝国の衰退とロシア<br>8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国<br>9. 江戸幕府の滅亡 | a: 18 世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における政治、各地域間や清や日本などアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18 世紀とその前後の世界の経済と社会を理解している。<br>b: 18 世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国でのできごとや影響などに着目して、主題を設定し、世界各地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18 世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、東アジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。<br>c: 18 世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸とアジアとの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとととともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | 定期考査<br><br>確認テスト | 定期考査<br><br>確認テスト<br><br>記述の点検（ノート、ワークシート等） | 記述の点検（ノート、ワークシート等）<br><br>行動の観察 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第3章<br>10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一<br>11. 明治政府の諸改革<br>12. 日本のアジア外交と国境問題<br>13. 自由民権運動と大日本帝国憲法<br><br>第4章<br>14. 帝国主義の時代へ<br>15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争<br>16. 日清戦争後の東アジア<br>17. 日露戦争と東アジアの変動<br>18. 日本の産業革命 | a: 19 世紀後半から 20 世紀初頭のヨーロッパや日本における政治、ヨーロッパ各地域間や日本と欧米諸国の関係やアジアの経済と社会を理解している。<br>b: 19 世紀後半から 20 世紀初頭の欧米諸国が日本に与えた影響などに着目して、主題を設定し、ヨーロッパ・アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19 世紀後半のヨーロッパ・アジアにおける政治活動の特徴、各地域間の関係、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。<br>c: 19 世紀後半から 20 世紀初頭のヨーロッパの動きや日本との関連、日本のアジア進出に関わる諸事象関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとととともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | 定期考査<br><br>確認テスト | 定期考査<br><br>確認テスト<br><br>記述の点検（ノート、ワークシート等） | 記述の点検（ノート、ワークシート等）<br><br>行動の観察 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2学期 | 第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち | 第5章<br>19. 第一次世界大戦<br>20. ロシア革命とソ連の成立<br>21. 米騒動と大正デモクラシー<br>22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制<br>23. アジアの民族運動<br>24. 第一次世界大戦後の欧米諸国<br>25. ひろがる社会運動と普通選挙の実現 | a: 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。<br>b: 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。<br>c: 20 世紀初頭から戦間期にかけての日本を中心に世界的な動きと関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 | 定期考査<br><br>確認テスト | 定期考査<br><br>確認テスト<br><br>記述の点検（ノート、ワークシート等） | 記述の点検（ノート、ワークシート等）<br><br>行動の観察 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第6章<br>26. 世界恐慌と各国の対応<br>27. ファシズムの時代<br>28. 満洲事変と軍部の対立<br>29. 日中戦争と戦時体制<br>30. 第二次世界大戦の勃発<br>31. 第二次世界大戦の終結<br>32. 国際連合の成立と冷戦<br>33. 日本占領と日本国憲法<br>34. 朝鮮戦争と日本 | a: 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。<br>b: 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。<br>c: 世界恐慌やナチス・ドイツ誕生の頃から第二次世界大戦の後の日本の独立回復までの日本と世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さにつ | 定期考査<br><br>確認テスト | 定期考査<br><br>確認テスト<br><br>記述の点検（ノート、ワークシート等） | 記述の点検（ノート、ワークシート等）<br><br>行動の観察 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | いての自覚などを深める。 | | | |
| 3学期 | 第3編 グローバル化と私たち | 第7章<br>35. 植民地の独立<br>36. 米ソ両陣営の動揺<br>37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長<br><br>第8章<br>38. 石油危機と世界経済<br>39. 緊張緩和から冷戦の終息へ<br>40. 日本の経済大国化<br><br>第9章<br>41. 地域紛争と対立<br>42. 国際秩序の変容 | a: 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につけている。<br>b: 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用して、グローバル化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。<br>c: 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から、情報を読みとったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。 | 定期考査<br><br>確認テスト<br>定期考査<br><br>確認テスト | 定期考査<br><br>確認テスト<br><br>記述の点検（ノート、ワークシート等） | 記述の点検（ノート、ワークシート等）<br><br>行動の観察 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度